

第5章 台東区全域における年間観光客数の推計

5-1. 年間観光客数の推計プロセス

本章では、台東区における浅草・上野以外の地区として、谷中、浅草橋両地区で実施した歩行者カウント調査結果をもとに、台東区全域における年間観光客数を推計する（図 5.1）。

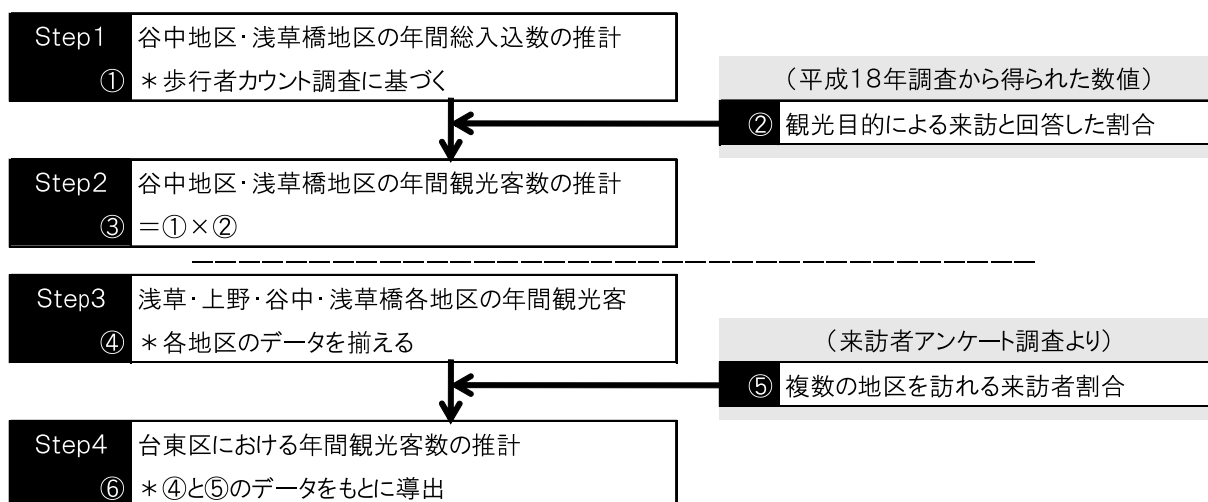
Step1：谷中、浅草橋両地区で実施した歩行者カウント調査から、年間総入込数を推計。

Step2：平成 18 年に実施した「台東区観光客マーケット調査」から得られる「観光」目的で来訪した割合を年間総入込数に乗じることで、両地区の年間観光客数を推計する。（前章で記述した上野・浅草両地区の観光客数推計とは異なるプロセスを用いる）。

Step3：上野・浅草両地区における来訪者アンケート調査結果に基づき、複数の地区を訪れる（回遊割合）来訪者割合を求める。

Step4：全域における回遊割合を加味して台東区における年間観光客数の推計結果とする。

図 5.1 台東区全域における年間観光客数の推計プロセス



5-2. 谷中・浅草橋・御徒町（アメ横）地区における年間観光客数の推計

(1) 谷中地区

谷中地区においては、平成 22 年 6 月と 12 月の計 4 日間（平日、土休日とも各 2 日間）、図 5.2 に示した地点で歩行者カウント調査を実施した。

調査時間帯は、各日とも 9 時～17 時であり、図中の矢印の方向に進む歩行者数をカウントしている。そのため、全ての調査地点における歩行者交通量を足し上げることで、谷中地区に入場する人数を求めることができる。図 5.3 は、各調査日における一時間あたりの歩行者交通量（全ての調査地点の合計値）を時系列で集計したものである。谷中地区の場合、平日よりも休日の方が歩行者交通量は多い傾向にある。

以上の調査結果に基づき、谷中地区における年間歩行者交通量を推計したものが表 5.1 である。平日、土休日ともにそれぞれの平均歩行者交通量を求め、それに平成 22 年の年間日数（平日、土休日別）を乗じることで、年間歩行者交通量を求めた。

図 5.2 歩行者カウント調査地点

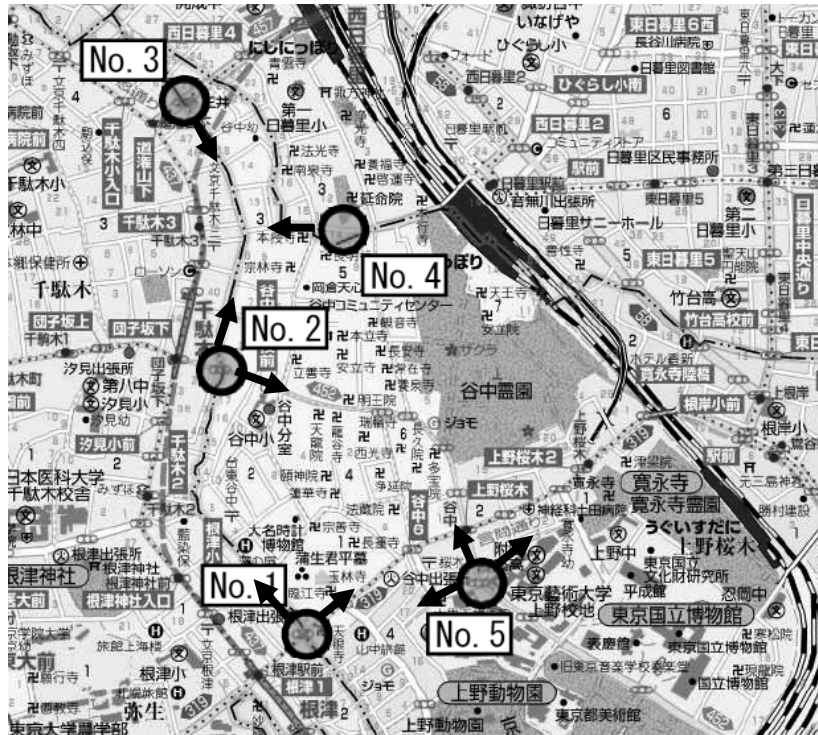


図 5.3 谷中地区における歩行者交通量調査結果

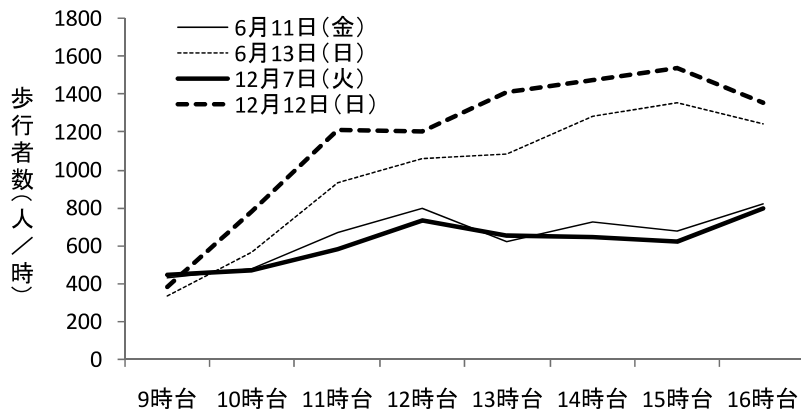


表 5.1 谷中地区における年間歩行者交通量

調査月日	歩行者 交通量	平均歩行者 交通量	日数	年間歩行者交通量
	①	②	③	②×③
平日	6月11日(金)	5,232	246	1,253,985
	12月7日(火)	4,963		
土休日	6月13日(日)	7,860	119	1,024,471
	12月12日(日)	9,358		
				2,278,456

平成 18 年に台東区が実施した「台東区観光客マーケット調査」によると、来訪者アンケートに関する報告書のなかで、台東区以外の居住者が 98.2%（回答者ベース）であり、「観光」目的で谷中地区を訪れたと回答した割合が 66.7%であると述べている。このパラメータを援用し、谷中地区における年間観光客数を推計する。

谷中地区の年間観光客数の推計：

歩行者カウント調査を基準

298 万 3,231 人(谷中地区の年間歩行者交通量) × 0.982(台東区以外の居住者割合)

= ①(谷中地区の総入込数)

① × 0.667(観光目的で来訪した割合) = 149 万 2,375 人

(2) 浅草橋地区

浅草橋地区においても、平成 22 年 6 月と 12 月の計 4 日間（平日、土休日とも各 2 日間）、図 5.4 に浅草橋駅東口を対象に歩行者カウント調査を実施した。

調査時間帯は、各日とも 9 時～17 時であり、図中の矢印の方向に進む歩行者数をカウントしている。図 5.5 は、各調査日における一時間あたりの歩行者交通量(全ての調査地点の合計値)を時系列で集計したものである。谷中地区とは異なり、歩行者交通量は平日の方が多く、とりわけ午前 9 時台にピークがある。これは業務需要等によるものであり、多くは観光行動と関係していないと考えられる。

図 5.4 歩行者カウント調査地点

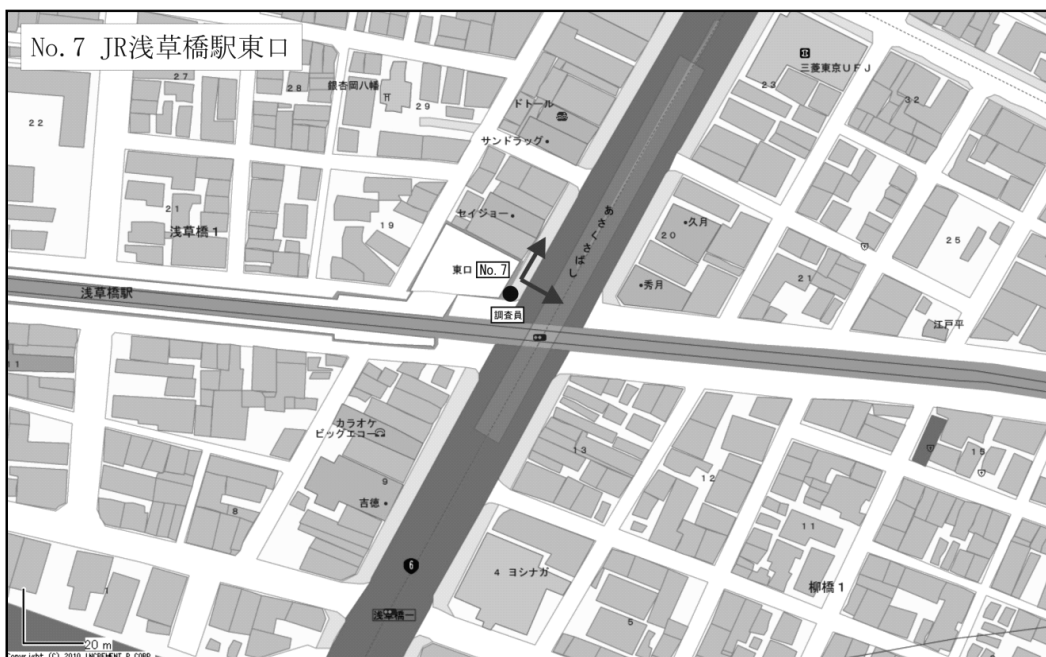
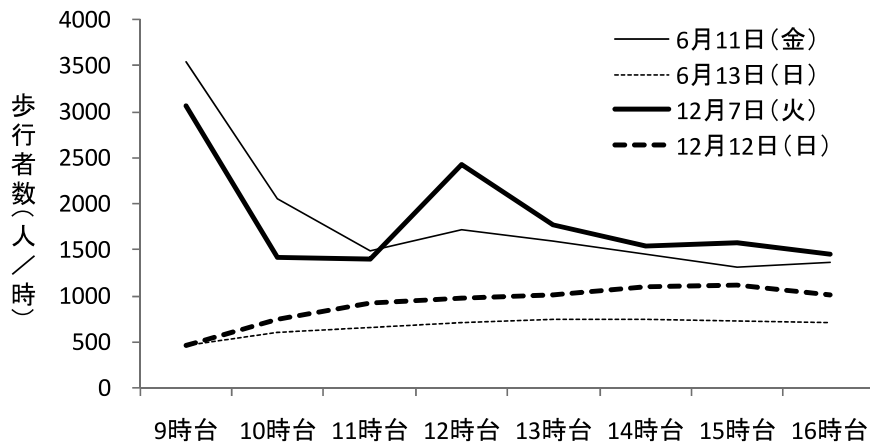


図 5.5 浅草橋地区における歩行者カウント調査結果



以上の調査結果に基づき、浅草橋地区における年間歩行者交通量を推計した(表 5.2)。業務需要が突出していると推察される平日の午前 9 時台のデータを除外し、年間歩行者交通量を推計すると約 353 万人であった。

表 5.2 浅草橋地区における年間歩行者交通量

調査月日	歩行者交通量 ①	平均歩行者交通量 ②	日数 ③	年間歩行者交通量 ②×③
平日	6月11日(金) 11,000 12月7日(火) 11,608	11,304	246	2,780,784
土休日	6月13日(日) 5,357 12月12日(日) 7,357	6,357	119	756,483
				3,537,267

浅草橋駅は、JR総武本線と都営地下鉄(東京都交通局)浅草線の結節点であることから、歩行者交通量のなかに両路線の乗継客が少なからず含まれている。本調査では、平成 17 年に実施された『大都市交通センサス』に基づき、浅草橋駅における一日の乗継旅客の割合を求めた。その結果、31.1%となった。鉄道乗継客を除いた年間歩行者交通量は、下記の通りである。

$$353 \text{ 万 } 7,267 \text{ 人} \times (1 - 0.311) = 243 \text{ 万 } 7,176 \text{ 人}$$

平成 18 年に台東区が実施した「台東区観光客マーケット調査」によると、来訪者アンケートに関する報告書のなかで、台東区以外の居住者が 98.2% (回答者ベース) であり、「観光」目的で浅草橋地区を訪れたと回答した割合が 23.8%であると述べている。このパラメータを援用し、浅草橋地区における年間観光客数を推計した。

浅草橋地区の年間観光客数推計:

歩行者カウント調査基準

243 万 7,176 人(浅草橋地区の年間歩行者交通量(乗継客を除く))

× 0.982(台東区以外の居住者割合)

= ①(浅草橋地区の総入込数)

① × 0.238(観光目的で来訪した割合) = 58 万 47 人

(3) 御徒町（アメ横）地区

御徒町（アメ横）地区においては、平成22年6月と12月の計4日間（平日、土休日とも各2日間）、図5.6に示した箇所で歩行者カウント調査を実施した。平日、土休日ともにそれぞれの平均歩行者交通量を求め、それに平成22年の年間日数（平日、土休日別）を乗じることで、年間歩行者交通量を求めた。調査時間帯は、各日とも9時～17時であり、業務需要が突出していると推察される平日の午前9時台のデータを除外した。

加えて、上野中通り商店街御徒町入り口に設置されている自動センサーによる24時間全数カウントデータを利用した。データから業務需要を除くため、10時～17時の平均割合を乗じて、平日・土休日の昼間交通量を推計した。また御徒町駅からアメ横地区にはアメ横通りにも入場口があり上野中通りとほぼ同数の歩行者交通量が推測できる為、上野中通りの流量と同数をアメ横通りの御徒町入り口歩行者交通量とした。

全ての観測点における歩行者交通量を足し上げることで、御徒町（アメ横）地区に入場する人数を求めることができる。

図 5.6 歩行者カウント調査地点

(1) 台東4丁目交差点付近、(2) 上野中通り商店街、御徒町側入り口

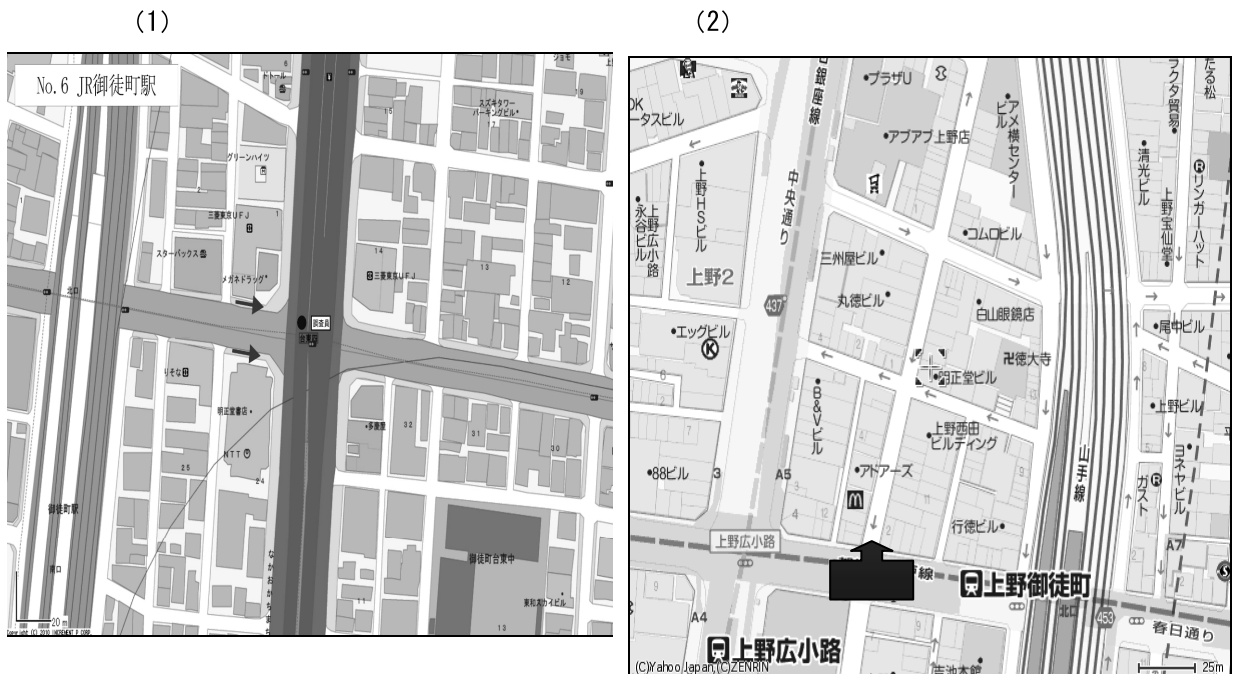


表 5.3 御徒町（アメ横）地区における年間歩行者交通量

御徒町（昭和通り方向）

調査月日	歩行者 交通量 ①	平均 交通量 ②	日数 ③	年間歩行者交通量 ②×③	
平日	6月11日（金） 12月7日（火）	11,003 9,956	10,480	246	2,577,957
土休日	6月13日（日） 12月12日（日）	9,409 9,383	9,396	119	1,118,124
					3,696,081

上野中通りアメ横入場者

平成22年 平均交通量 ①	昼間 通行割合 ②	10時～ 17時 ①×②=③	日数 ④	年間歩行者交通量 ③×④ 合計×2
9240	56.1%	5179	246	1,274,039
11440	49.1%	5614	119	668,019
				3,884,117

平成 18 年に台東区が実施した「台東区観光客マーケット調査」によると、来訪者アンケートに関する報告書のなかで、台東区以外の居住者が 98.2%（回答者ベース）であり、「観光」目的で御徒町（アメ横）地区を訪れたと回答した割合が 66.7%であると述べている。このパラメータを援用し、御徒町（アメ横）地区における年間観光客数を推計する。

御徒町（アメ横）地区の年間観光客数の推計：

歩行者カウント調査を基準

758万 198 人（年間歩行者交通量）× 0.982（台東区以外の居住者割合）

= 744 万 3,755 人①（総入込数）

① × 0.667（観光目的で来訪した割合）= 496 万 4,985 人

